

本音と建て前

永井正子

A男とB男がけんかをしている。普段は特に仲良しという訳ではないが、決して仲が悪い方ではない。一緒に氣に入った遊びをしている時は、ほんとうに楽しそうによく遊ぶ——そんな仲の二人が、けんかをしている。まわりの友達はいびくり、呆然としている。

比較的体格の良い二人が取っ組み合いのけんかをしているのだから、それはもう、クラス中の子供たちの知るところとなった。

何が原因なのか、どうしてこんなに真剣な顔をしてけんかしているのか、誰にもよく分らない。せめて怪我をしないようにと、周囲に散らばっている積木を片づけ、他の子供たちにも離れているように言って、しばらく様子を見ることにした。

いつまで続くのかと内心ジリジリしながら待ち続け、もうこの辺りが限界と思った矢先、なんとこの二人は、

「もう やめようよ」とお互いに言い合って、今の今までかなりの勢いでしていたけんかを、あっさりと止めてしまい、再び仲良く遊び始めた。

A男とB男のけんかを心配そうに見守っていた友達も、野次馬見物を決め込んでいた子供も、この結末に満足した様子で、散って行った。

C子と、D子、E子、F子がけんかしている。

負けん気の強いC子は、孤軍奮闘。思いつく限りの言葉でもって、三人を相手に頑張っている。E子、F子は、交互に二言三言ずつ、どうもD子をかばっている様子。

D子が突然泣き出した。E子、F子の応援も力及ばず、C子の言葉に我慢できなくなったらしい。(D子が泣き出したことで、E子、F子の、C子に対する攻撃の言葉は、ますます激しくなるだろう……と想像し

たのであるが)

「D子ってすぐ泣くんだから」というE子、F子の言葉で、このけんかは終わりとなった。

G男とH男のけんかが始まっている。

体つきの大きいG男に、小粒のH男がよく抗している。もともとは、K男とH男のけんか。K男が劣勢と見たG男が加勢に来て、結局、G男とH男のけんかに発展(?)してしまったものらしい。

けんかの途中で引き止めて、事情を聞いてみた。

G男の言い分 K男がH男にいじめられていたから、

助けてあげようと思った。

H男の言い分 K男が、ぼくの作っていた積木を蹴飛

ばして壊しちゃった。

K男の言い分 そばを通っただけなのに、急にH男が

ぼくのことをぶった。

『電車の中でけんかをしていた人のひとりが殺された。同じ車両に乗り合わせていた人たちは、誰も助け

ようとしなかった』

『歩道を通行中、些細な事から口論となり、ひとりは刺されて死亡。他の二名重傷』

建て前……いじめられている人を助けよう

本音……自分が傷ついたら困るから、知らん振り、知

らん振り

子供の世界のけんかと大人の世界のそれとは、一概に比較できないとは思いますが、それにしても、子供から大人になるどの時点で考え方が転換するのでしょうか。世渡りがうまくなる処世術を身につけるといふことは、考えている事と行動とが必ずしも一致しない、いえ、この二つがはっきりと分離することを意味する——いつまでも自分の気持ちに素直でいて欲しいと願う反面、感情をコントロールする力を身につけて、荒海に漕ぎ出て欲しいのです。

今、幼稚園を離れようとしている子供たち、どうぞ本音と建て前どちらか一方に片寄り過ぎないで、バランス良く育ててくださいと願うのは、大人の、私の偏見でしょうか。(お茶の水女子大学附属幼稚園)